紙上で博物館 Museum on the newspaper

運ぶ。 vol.11

—蚕糸業を支えたモノの流れ—

岡谷蚕糸博物館 OKAYA SILK MUSEUM 企画展から シルクファクトおかや

籠を運ぶ

鉄砲籠の垣根

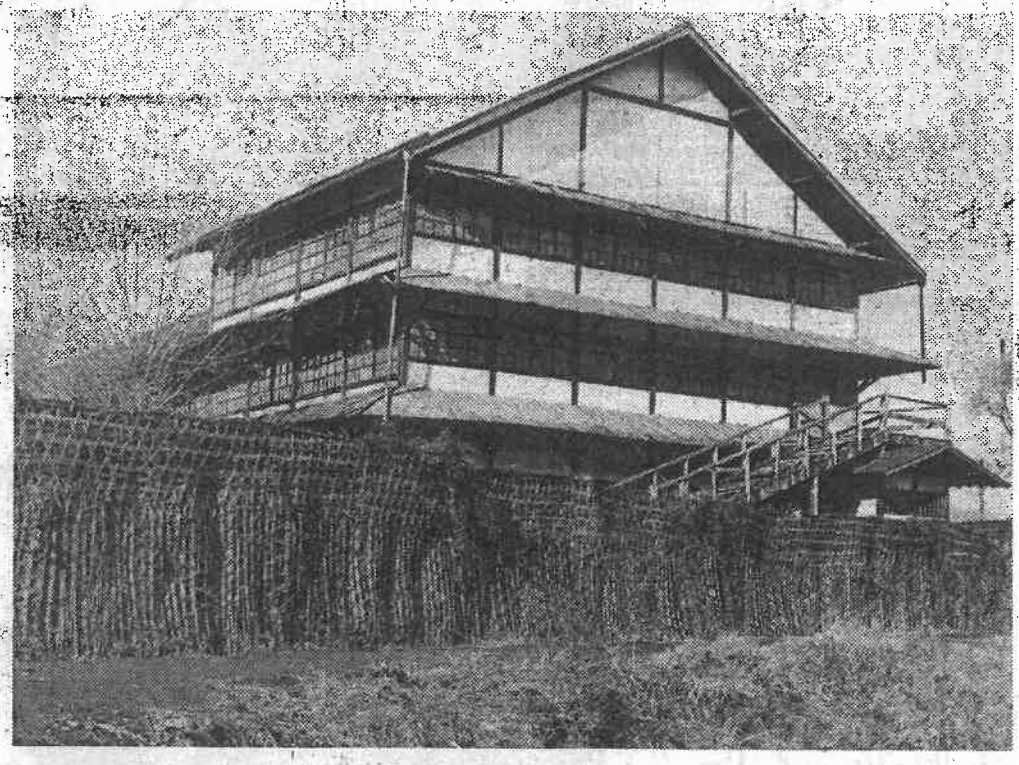
昭和初期

連載3回目の「繭を運ぶ」で鉄砲籠のことをお伝えしましたが、「製糸工場や町の中で見られた鉄砲籠を利用した垣根や塀とはどのようなものですか?」との問い合わせを多数頂きました。

この写真がそうです!製糸工場の敷地を囲う塀が鉄砲籠を開いて造られています。

鉄砲籠は円柱形で、高さは80㌢ほど、直径60㌢。これを開くとおよそ80㌢×180㌢の長方形になります。竹で編んだこの繭籠を広げたものを写真のように縦横に幾重にも重ねて並べると、頑丈な塀が出来上がります。この塀の高さは、260㌢もあります!「へぇ〜!」

ぐるり建物の周りが全部籠塀になったら、どこで出入りするのでしょう?ちゃんと、出入口が設けてありました。このように、蚕糸業に関わるものを再利用する術もまた、糸のまち岡谷に暮らす人たちの知恵の結晶です。



業のうち、新型コロナウイルスに対応する一

業活動の維持に取り組んでもらう狙いだ。

助成金を上乗せする考え。手続きの煩雑さが

業奨励金」は、新型コロナの影響で売り上げ

し、「国の制度を活用しながら金融、雇用維

持続化給付金 申請サポート

きょう テクノプラザおかやに設置

新型コロナ感染症の影響で売り上げが半減し、個人事業主にした国の「持続化給付金」の申請会場がきょう28日、テクノプラザおかやに設置される＝写真。少なくとも7月末までは開設し、国の申請サポート事務局の担当者がオンライン申